

# 校長室通信

令和6年4月15日号  
志免町立志免西小学校  
高良 祐治

4月1日に校長として赴任しました高良祐治(こうらゆうじ)です。昨年度開校150周年を迎えた伝統校であり、また糟屋地区で最も児童数が多い本校の校長として、これからどのような学校の舵取りを行っていくことができるか大変楽しみにしています。

この通信では、校長の視点から、子どもたちの様子や志免西小の教育についてお伝えしていきます。ご家庭や地域の皆様とともに志免西小の子どもたちの健やかな成長を応援していくためにも、ぜひ一読いただき、学校教育へのご理解とご協力のほどよろしく申し上げます。

## 始業式で子どもたちに伝えたこと

初めて子どもたちと出会い(1年生は入学前のため2~6年生です)、子どもたちに伝えたことは、「毎日『今日も学校だ！楽しみだなあ！』と思いながら目を覚まし、『今日も学校楽しかったなあ。』と思いながら眠りましょう。」ということです。そして、「そんな毎日にするためには、どんな学校生活にすればいいかな？」と問いかけて、校長先生の話を終りました。

一人一人の子どもたちに平等に与えられている今年の学年や学級での1年間の生活時間を、少しでも有意義なものにしてほしくて問いかけてみました。学校生活を充実させるためには、日々の学習や係などの活動、様々な行事、心身の健康や安全、そして友達や先生との人間関係などについて自分が満足できるものにしていかなければなりません。このような意識をもって日々の学校生活をそれぞれの子どもたちが送ることができれば、学校全体がとても前向きな雰囲気になってくると思います。もちろん、そのために我々教師も一人一人の子どもたちを見つめ、支援や指導を行ってまいります。

ぜひ、ご家庭では、子どもたちが学校の様子を語るときは耳を傾けていただき、地域の皆様には、子どもたちの様子を温かく見守っていただきますようお願いいたします。

## 朝のあいさつの様子

始業式翌日の朝から、正門のところで子どもたちの登校の様子を見守りながら「おはようございます。」と声をかけています。

色々な子どもの姿が見られます。

- ・明るい笑顔で元気なあいさつを返してくれる子ども
- ・恥ずかしそうに小さな声であいさつをしてくれる子ども
- ・目線をずらし、ちょっと会釈をして足早に通り過ぎていく子ども
- ・ポケットに手を突っ込んだまま、暗い顔で無反応な子ども…

あいさつが返ってこない子どもは、ひよっとしたら最近嫌なことがあったのかもしれないし、体調がすぐれないのかもしれませんがね。きっと明日は明るいあいさつが返ってくるはずと信じて、これからも声をかけていきたいと思います。

「どんなに勉強ができて金を持っていても、あいさつと掃除と時間を守ることができない人間は社会ではやっていけない。」と言われます。しないといけないからするあいさつではなく、人間関係の潤滑油であり、社会人として当然身につけておくべきあいさつを、学校、家庭、地域で子どもたちに定着させていきましょう。

